

かわさき市民オンブズマン  
会報 第53号  
隔月発行 2006年6月1日

第10回定例総会特集号

主張 議員さん、しっかりして下さい 代表幹事 清水芳治 2

包括外部監査報告と南伊豆保養所土地問題 江口武正 3

資料 用地買収及び物件補償執行確認書 4

この不愉快感は私だけのものか? 高橋信行 3

かわさき市民オンブズマン第10回定例総会議事録(記録・巽 栄作) 5

日時:2006年5月14日(日)13:30~16:20

場所:エポックなかはら 第3会議室

出席:約30名

調査活動の難問 望月文雄 11

十字路

憲法記念日によせて 佐々木玲吉 12

トルコ紀行 その3 トロイ(4日目) 望月文雄 14

会計報告

編集後記

第2回拡大幹事会  
6月20日午後6時30分より  
中原市民館で開催

# 主 張 議員さん、しっかりして下さい 東和町の問題点

代表幹事 清水 芳治

川崎市は川崎市土地開発公社が保有する南伊豆の土地を昨年末、売却させ、自身で保有した岩手県東和町の土地を旧東和町に無償譲渡して市民の注目を集めた。この事件は川崎市の違法不当な土地取得から出発する。

土地開発公社設立の根拠法でもある公有地の拡大に関する法律（いわゆる公拡法）はこの法律の目的を「地域の秩序ある整備」とし、「良好な都市環境の整備を促進するため、必要な土地を公有地として確保」するために施行する法律であり、公社はその目的に従って活動しなければならないのであって、川崎市から3時間もかかる南伊豆や530 kmも離れた東和町に土地を取得することは、公拡法の拡大解釈であり、違法不当な行為である。

しかし土地取得当時の関係文書を閲覧しても議員や議会が違法行為であると異議を申し立てた形跡は見当たらない。

また金銭面に目をやれば直ちに疑問点が見つかる。地価がどのようにして決定され、それが果たして正当性を保ち得るかをこの際、検討して置きたい。

地方公共団体が土地を取得するにあたっては、国家資格を持つ不動産鑑定士に土地の鑑定評価を依頼する。だから安心、という訳だ。

南伊豆の1996年の買収価格は6億1734万余円であり、2005年の売却価格は5570万円であった。東和町はそれより3年前1993年取得。取得額4488万3760円、2006年無償譲渡時の評価額226万円。いずれも素人ではなく不動産鑑定士の鑑定評価に基づく価格である。

不動産鑑定士が偶々同じ財団法人日本不動産鑑定所に所属する不動産鑑定士によって鑑定評価された東和町を分析してみよう。

同鑑定所の調査による山林素地の価格動向によれば（かわさき市民オンブズマン2005年度活動報告資料集95ページ）鑑定士は取得時から土地は下落し現時点では往時のほぼ70%と計算している。もう1人の所属の別の鑑定士はこの2、3年は9ないし10%の率で下落していると報告しているので、1993年から2006年まで平均10%の下落率で試算してみた。するとほぼ1/4まで下落することが分かった。しかしどう計算しても226万円には下らない。

土地の鑑定評価には様々な手法があるが、いずれも近隣に類似の同規模の取引事例があり、事例との比較考量にもとづいて価格が決定される。ところが南伊豆も東和町もかくまで大規模な取引事例は存在しない。

従って、鑑定は中空で行われたと断定して間違いない。だから何ものかに暗示された金額が算定根拠となるのは必然だ。

行政が「客観的根拠」と提示するものがいかに頼りないものであるかが納得されよう。

こうした疑問を厳しく追及しない議会がすっかり行政の手玉に取られている事態がつい最近も出来た。

柿生の緑地開発について住民から開発停止の請願が出されており、その請願審査の2日前に緑地の開発許可が下ろされたのだ。

議員さん、しっかりして下さい。一番、奮起してください。

## 包括外部監査報告と 南伊豆保養所土地問題

江口 武正

川崎市がいかにか杜撰で市民不在の取得を行ったかを説明し、川崎市の問題に対する無責任体質、特に購入価格の稟議が滅茶苦茶であったことを指摘したい。そのことは17年度の包括外部監査報告書に内容が詳細に記述されており、なかでも重大な問題点を同報告書の文章を用い、ここで改めて確認しておきたい。

（『内の文章は監査報告書からの引用）

### 1. 報告書はまず高価な買物と明言

『南伊豆町土地は、平成6年10月4日にA学園が株式会社Bから2億円程度で購入したものである。——この売買から、川崎市が方針を確定させた平成7年11月までわずか1年1ヶ月しか経過しておらず、この時点での用地買収費5.61億円は結果として明らかに高額であったと考える。』

同報告書は川崎市が任命したが監査人が直接調査、報告したものであり、川崎市は指摘を真摯に受け止めねばならない立場である。

### 2. 杜撰な処理

『最終的には6.17億円で取得している。当初の5.61億円が妥当であったかは別にして、この5.61億円で決裁を受けてきて、最後にそれよりも5600万円も高い価格で取得している。市のルール上は、このような場合にも特別な問題はないとのことである。』

決裁より1割高い価格で取得したことを監査人は厳しく指摘している。それも正規の決裁を実施せずにである。稟議書を次ページに掲載するが、なんと、1割高い価格の修正を課長印で行っているのである。こんなデタラメを許す川崎市のルールを明確に市民に説明してもらいたい。市民ももう少し怒りをあらわにしても良いと思うのだが。

## この不愉快感は 私だけのものか？

高橋 信行

（1）1024.6兆円、これは平成17年10月20日付け「経済トレンドレポート」に記載された日本の政府の借金である。国債及び借入金795.8兆円、政府保証債57.8兆円、地方債205兆円、これから重複分を差し引いた金額である。先進国では例を見ない巨大な債務である。これは恐ろしいことであると思われるが、私達の感覚から離れてピンとこない感じである。

最近の政府税制調査会の報告によると財政赤字の最大要因は「借り換え債」と「税収減」と言っている。そしてマスコミもこれを受けて実質増税止もうえないとのキャンペーンを流している。増税は既に始まっている老齢年金控除の廃止、住民税の引き上げ等、これらの複雑な財政事情とすべての情報が公開されていないので、その実体は分からないが、この巨大な赤字の最大要因は「税金のムダ遣い」だと私は直感している。

17年6月22日の東京新聞にも「小さな政府」は掛け声倒れになっていると指摘されている。私には不吉な予感さえする。

（2）平成18年5月14日かわさき市民オンブズマンの総会に出席した。川崎市の財政は地方財政で規模は小さいが、それでも数億から数十億円のムダ遣いがある。オンブズマンの皆さんが奉仕活動で大変な努力をして、多くの資料を集め調査分析して「税金のムダ遣い」を追及している姿には日頃から感謝している。それにも拘わらず、市庁システムや第三セクター側の過去の「ムダ遣い」に対する責任者の陳謝や責任の履行が行われたことを聞いたことがない。この無責任体制が温存される限り今後も同じ過ちは継続されるので



## かわさき市民オンブズマン 第10回定例総会議事録

記録担当 巽 栄作

日時：2006年5月14日（日）

13：30～16：20

場所：エポックなかはら 第3会議室

出席人数：約30名

当日は曇り空で少し涼しい気候であった。

（司会の川口事務局長から、開会の挨拶）

川口：今回は外部講師は呼んでいない代わりに、内部からの発表を充実させました。

KCTの損失補償については、違法だということで裁判をしています。

市の第3セクターが、天下り人事の温床になっています。

南伊豆の土地は簿価は7億円あったのに、5570万円になってしまいました。同様に東和町も8億円つぎ込んで226万円になってしまいました。

土地開発公社は赤字が膨らんでおり、私達の税金が使われることになります。準備金の減少について後ほど報告します。

会報及びHPを充実させたが、スパムメールがたくさん来るので整理が大変です。学生やマスコミからメールが来るので、対応する必要がありメールを止められないのです。

それでは望月さんの3セクの話をお願いします。

望月：トップバッターということで、今準備が追いついていませんが、やります。資料集については以前のもので、川崎市の中で特徴のあるのは、株式会社に出資している所です。普通は代表が2年ごとに変わるが、会社の場合だけは長くやっています。深瀬社長は地下街（株式会社）を平成11年からずっと社長をやっています。普通の3セクは2年

および年収500万円で制限されています。これに対して会社組織は制限がありません。

住宅供給公社の役職は、理事長、副理事長、専務理事、常務理事・・・と5段階あります。市役所を辞めた人の必要に応じて増やしたのではないのでしょうか？

FAZについては佐々木さんの資料を参考にしながら、3、4年間の借入金をまとめてみました。銀行が融資のストップをかけた年、FAZをつぶせばよかったのに、37億円の融資をして救ってしまいました。こういうことは、出資法人の報告資料をみても出てこない。隠れみものになっているのではないのでしょうか？

この前、地下街の本社に出かけて行って聞いてみたら、役員の人に社秘になるので、見せられないと言われました。補助金が1億2000万円分なくなって影響があるのではないかと聞いたら、会計上の処理だから影響がないと言われました。何とも不思議な会社です。

臨港倉庫へ質問状を出した時、メールではだめと言われたので、手紙を出しました。

剰余金が増えているがどうするのかを聞いたら、剰余金は現金ではありません、使えるのは現金のみです。剰余金と言いながら、固定資産が含まれているのが不思議な気がします。

以上、出資法人の問題点を総体的につかむことが出来ました。

川口：第3セクターが我々市民にとって、本当に必要なものかどうか調べていきたいと思えます。

昔、TVで南伊豆を放映した時の映像を持ってきました。会場にTVがないので音だけでも聞いて下さい。

— 過去の報道特集のVTRを再生—

(以下内容の一部)

奥田：現地は保養地として不適。

不動産屋：どうして金を出したのか不可解。

職員：利用目的不明のまま取得するのは問題、決まっているのなら仕方ない。紹介者が議員さんだと聞いている。

オンブズマン：紹介者の欄が済み塗りだった。当時の現職の市議会議員。市の上層部と議員の間に癒着があった。

当時の市議会議員：情報提供をただけ、名前を隠すな、はっきり言えと言っておいた。

江口：南伊豆の土地は去年で決着はつきました。持っていても利子がつくので売ったら、あまりにも安すぎた。

買う時は思い切り高く、売る時は思い切りやすい、信じられない。税金ですよ。

もし監査請求が棄却されたら裁判になる。内部の監査委員では監査できないので、外部監査制度が出来たわけ。外部監査は、1年間かけていろいろな問題を調査します。今回、土地開発公社を良く調べてくれました。

南伊豆の部分を抜粋して資料集に載せた。市民が直接言うとマユツバだといわれるので、包括外部監査報告書は市が認めて発行したのだから、本当の事だというための資料になります。

包括外部監査の資料だけで説明します。まず値段、6億1700万円の土地価格の決定について。本当は5億6100万円が正確な数字。これでも決して安くはないのでこれ自身問題がある数字なのに、ちょうど一割価格を上げている。決済書類は元の5億6100万円で作っている。最後に部長が勝手に線を引いて価格を変えている。そんなことが可能なのか？そのことが監査報告書に書いてある。監査人は追及をしているが、市からは、市のルールだという回答だった。

そもそも鑑定というのはなんというか、と

てもいいかげんなものだった。ここに3つの鑑定がかいてある。公社が頼んだ鑑定士6億1700万円、裁判所が頼んだ鑑定士3億9400万円、後で川崎市が頼んだ鑑定士7億2400万円、だった。市は平地でないところも平地だと言いきっていた。

そして今回、売る事になったら、ものすごい安い鑑定になった。1億2000万円の鑑定が出て、それでも売れるかどうかわからないので、その半分の価格で売りに出した。

これだけ問題が顕在化しているのに、議員は追及していない。100条委員会などで追及しないと甘く見られるのでは。

— 続いて報道特集のVTRを再生—

ナレーター：岩手県東和町、ここは保養施設として良い場所かもしれない、ただ一つの点をのぞいては。(後略)

清水：土地の利用計画だけで4000万円もかけているのに、なぜ226万円になったのか？

合計8億3600万円かけていました。これを不思議に思うのが普通だが、どこかに普通でない人がいるようです。

土地開発公社には根拠法があります、それを公法という。たとえば川崎市だったら川崎市という地域の土地を買うことに、目的があります。遠く離れた南伊豆や東和町を買うことは、法律の主旨からして違法です。

例として一般の土地の下落率を計算してみました。大きく見積もっても、この期間に72%にしか下がっていません。4400万円を買ったものが226万円になることはありえないのです。

このように取り引き事例のないところの金額などは、注文者のいいなりになっている面があります。川崎市が、いくらと指示したことが推測される。

江口：温泉や道路整備で使った金が8億円

になっている。

清水：温泉掘削に関しては業者が破産したとかいろいろあった。今回は時間の関係で土地の価格だけの話をしました。

川口：最後に篠原さんに土地開発公社のことをまとめてもらいます。

篠原：三田工業から賄賂をもらった時も鑑定士を旨く使った。東和町も南伊豆も汚職で逮捕された飯塚がやっている。三田工業事件では賄賂で、土地を2回値下げして売った。

「市長は何もわからない、俺が牛耳っている」と某議会関係者が言っていた。

川崎市労連会館で賄賂の受け渡しをしている。飯塚は、二号さんの維持と娘さんのためにもらったお金を使った。

6億で3億もうかった、それぞれが〇〇、〇〇〇、〇〇〇〇（議事録では伏せ字）に分けられたという情報がある。

飯塚は既に出所したが、市役所での経験を生かして不動産会社の顧問をしている。

25%以上の出資をしている第3セクターからは情報公開が取れます。川崎は第3セクターの整理が進んでいない。何故第3セクターを温存したがるのか？

これを聞いて、川崎市の望月さんの資料で、川崎市は異常に3セクが多い。阿部市長は3セクを整理するための割りきりが弱いのでは。

土地開発公社に絞ってまとめたものが資料集にあります。諸悪の根元だという土地を6人でまとめました。アイデアを提供して、皆さんの意見を聞きたいと思います。

土地開発公社に対しては地方公共団体の連帯保証が例外的に認められている。手数料も払っている。普通の場合は1%。絶対赤字にならない仕組みになっている。

それを使って、利用目的がはっきりしない土地、おまけで買った土地、議員紹介の土地、

など、5年10年の塩漬け土地が生まれてしまった。

私達が問題追及したら、最近損切りして売ることにした。それらを情報公開してまとめたものが資料集にあります。医療生協が買ったものだけは、赤字になっていない、これは買った側が損をした特別な例です。

土地開発公社はまず倒産します。時価と比べると簿価は3倍4倍。簿価を時価に見直すべきです。

強調しておきたいのは、ものすごいインチキをやっているということ、保養所を3つも持っていたのは川崎だけなのに、なぜそれ以上に2つも建設用地を買ったのか。議員紹介か？ 誰かの親戚でもいるのか？ 法律違反、良好な都市環境、地域の整備のために、土地開発公社は設立した。それなのに遠く離れた東和町の整備をするのはおかしい。

平成12年に市が直接買って、転売できないので、定期借地権で貸し出したが、マイコンシティ。これも膨大な赤字が発生している。

以上です。

川口：公社の赤字を我々が払わなくてはならないというのは腹立たしいです。そのためどうするのかは後半で話してもらいます。

その前に会計報告を渡辺さんからお願いします。

渡辺：（議案書の通り説明をした。）

活動のためにお金がかかっています、全国大会への参加費の半額を出しています。去年は九州だったので高かったです。

記載されていませんが、実はコピー代として10万円ぐらい払う必要が残っているので、今年の会計分で支払うことになります。

それから訴訟準備金が200万円あります。

会計監査は辻村さんが欠席なので清水さんが説明した。

清水：(議案書通り説明した)

川口：お待ちかねの質疑応答時間です。

男A：マイコンシティの区画はどうなっているのか？ 教えて欲しい。

篠原：区画が百何十あって、売れたのが半分。残り半分は貸したり、細かくしたりして売った。残っているのはわずかしかないので、形としては「マイコンシティ」になっている。

兵藤：KCTは大変な無駄遣いをやった。損失補償も行った。東和町はただでやってしまった。このような無茶苦茶を議会がチェックしていない。

5500億円を超える予算なので、1、2億円は大したことでは無いという感覚でやっているのではないのでしょうか。

まめに新聞などを通して、情報発信するしかないのでは。広報紙の「議会かわさき」は、役に立たない。

高橋：兵藤さんの言う通りです。このような話を具体的に聞くと不愉快になってしまう。最後に責任者には逃げられる。官僚は言い訳をするために勉強をしています。言い訳をして、最後は責任を取らないのです。

たとえば、民間で迷惑をかけた場合は、平身低頭してあやまっている。官僚は人の金だし、責任追及できない体制になっている。どうにかできないか？ どうしたらいいのでしょうか？

江口：我々も同感です。市でも誰も頭を下げていない。訴えられない仕組みになっている。たとえば第3セクターは直接訴えられないので、市に対する訴訟になっている。

法律上では苦勞をして、訴訟にもっていつている。わかりにくいし、変な仕組みになっている。

それなのに、もっと追及する側をきびしく制約しようとしている。議員なら追及が出来るのに、上の方はつるんでいる、若いものはジクジたる思いがあるようですが、上の者に押さえられている。

男B：飯塚は処罰を受けているのに、宮田元議長は処罰なしで、最近復権をし始めている。実際に高津区の区民会議の議長になっているし、町連の会長でもある。予算5000万円の執行も決められる権限がある。

区への分権でも、ただのボランティアの動きはつぶして、つながっている人が力を持っている。たとえば、公募で市民委員を選ぶのは、こっそりやっている。

高橋：市民オンブズマンと名前が似ている官製オンブズマンの問題、彼らに手紙が出せるようになっている。市民は間違えるのではないのでしょうか。

男C：官製オンブズマンには能力が無い。調査報告書が虚偽に基づいて書かれていた。行政の跡追いの報告がなされていることが指摘されている。無用の長物。私は、金子教授の間違いの報告に対して市長を訴えることを考えていた。行政マンがきちっとした対応をしていなかった。

川口：官製オンブズマンが給料をもらっているのは税金の無駄遣い。

兵藤：オンブズマンが識別されていない。向うが変えないなら、こちらが名称を変えるべきではないのでしょうか。

高橋：市民オンブズマンの名前は、全国的に定着している

篠原：正しい方が名前を変えてはいけない。

「採決」

川口：活動報告と会計報告に対し、採決をお願いします。

(両議案は、拍手にて、一括承認された。)



「後半」

清水：後半は私が司会をします。

江口代表幹事から活動方針案を提案してもらいます。

江口：毎年私が作っているのですが、内容があまり変わりません。

南伊豆ほどひどくないが、おかしなところはいっぱいあります。包括外部監査は枠を決めてやることに川崎市の方でもなっている。その評価にもとづいて改革することになっている。実際にやっているかどうか、チェックをします。

大阪の方では、この制度設立以来ずっと包括外部監査の評価をしている。通信簿をつけている。一番いい公認会計士を表彰しているので、我々の方でもやりたいと思います。外部監査に限らずやりたいです。

今回の外部監査は内容が良いが、結論が悪いです。責任をとれとは書いていないで、しくみを作れと書いてあります。

次に、地下鉄の問題です。

地下鉄問題は、川崎都市問題市民研究所でやっています。地下鉄は将来に問題を残すので、こちらでもやりたいです。

一番の問題は、元住吉の案が黒字だと言っていたのに、今度の説明では、赤字だと説明が変わること。武蔵小杉にすれば少しは良くなるのはわかるが、しらじらしい話。行政の予想は全部悪い方に変ります。川崎市の人口は将来減ってくるし、地下鉄ができたって10年以上はかかる。交通機関は今欲しいのに、先はどうなるかわからない。道路やバスは短期間で出来ます。地下鉄には反対です。

入札制度は横浜市は良くなっているのに、川崎市はだめです。

職員はゴルフ場をただで使えるそうですが、本当？ 人件費は川崎が一番高い。

東和町でも南伊豆でも裁判をやりたいが、篠原さんが検討している。

第3セクター問題は去年から本格的に始めました。

清水：どうもありがとうございました。

予算案も関連しますので、予算を説明してから質疑応答になります。

渡辺：予算書の日付が一年ずれています。どうもすみません。

当期の支出と睨み合わせて、予算をたてました。今年も全国大会は九州の福岡であります。

清水：次に人事案を紹介してもらいます。

川口：全員留任ということで代わり映えしない。幹事に入りたい方は、ぜひ言って下さい。この場で付け加えたいと思いますので。

清水：市川さんは体調不良のため、事務局次長を降りました。幹事になりたい人が無ければ人事案でいきたい。

男B：篠原さんの方から、活動提案が送られてきましたが、その取り扱いはどうするのでしょうか？

清水：篠原さんから別に提案されていますが、幹事会の決定は活動方針案であります。

篠原さんの案は、幹事会で審議をした後に提案したい。

男B：少なくとも、南伊豆と東和町の問題は、市民に知らされていない。勉強会をやってしらせたらどうか？ あまり時間をおかないうちにやってはどうでしょうか？

清水：特に土地問題について、勉強会を

やったらどうかと。

江口：マスコミにも、このことについて書いてもらう必要がある。

篠原：マスコミを意識しているが、記者の人数が川崎は減っている。横浜が中心になっている。川崎に1人しかいないので、役所と警察まわりだけしか出来ない。こちらがお膳立てする必要がある。統一地方選の前なので話に乗せやすいと思う。

部分的にやるなら、南伊豆と東和町、監査委員制度をどう変えるのか？ 制度改革シンポジウムをやるか。監査委員の給料がむだだという監査請求をやるか？

最後は、地下鉄で関連団体との協力がある。

住専だのなんだのでは、責任のある人は個人的にお金を出しているのに、役所のOBは誰も出していない。

清水：議案書1-1の中に、東和町と南伊豆のシンポジウムを入れた方がいい。

篠原：そこは、次の幹事会で決めたらどうか？

男B：それでいい。やり方は任せます。

高橋：全体の無駄についても言って欲しい。

江口：高橋さんも指導をお願いします。

高橋：民間では株主総会で追及される。本当は、議会が追及しなければならないはず。

清水：我々は議員ではない、議会活動の足りない所をカバーしてやっています。

男C：マスコミ活動はどうやっているのか？

清水：記者に連絡はしている。人員が減っているので、今日は来れないようです。

男C：記者に官製オンブズマンのことをいったら、金子教授を守るために取り上げないといっていた。彼らには、資料をもって行かないといけない。

清水：参考にしてマスコミ対策やっていきます。

兵藤：予算案で1万円の予備費がある。5から10万円にして機動的にやったらどうでしょうか？

清水：提案は検討させていただきます。

討論が終わりでしたら、原案承認の方は拍手をお願いします。

(拍手多数で承認された)

篠原：(閉会挨拶)

昨年もこれだけ取り上げてきた。我々が何かやると記事にはなっています。

今日は金澤さんがきていないが、ちょっと動くと20人ぐらい増えている。いいことをしているという自己満足に陥らずに会員拡大をすべきです。

マスコミを動かすには200人以上で集会をやりたい。オンブズマン以外にも呼びかけてやりたい。形にはこだわらない。

HPも活用していきたいと思っている。

全国から見ると出来の良いオンブズマンではあるが、市が変わってないのは反省材料があります。

今度の幹事会は明後日です。皆さんにどんどん幹事になってもらいたい。

清水：今日の受付は佐藤さん、草柳さん、渡辺さんの3人が担当し、記録は巽さんが担当しました。

(拍手)

この後、2次会を予定しています。

以上



## 調査活動の難問 (2006年3月25日)

望月 文雄

手がけていた調査が途中で問題にぶつかり、進行がストップしてしまうことがしばしば生じる。そこで止めてしまえば楽だが、自分の内に挫折感と無能力さへの失望が残る。人生は挫折失望の反復だと達観してしまえば良いのに、くよくよとこだわり、ディレンマに陥る。基礎知識・基礎学力の不足かなともがく。そんな心境に陥らせたのが川崎臨港倉庫株式会社の回答だ。

回答を貰って、一読したとき、返事があつたし、回答内容に問題は無いようだ判断し、2月の幹事会に報告資料として幾部か増しコピーして配布した。会議が終わるとき、コピーを読んだ江口代表幹事から、「固定資産などの財産も繰越金に含まれ、剰余金の中にも含まれるっていうのはおかしいんじゃないか。問い合わせした？」と質問された。「いやまだ、」と答えた私だが、その質問が正しいのかどうかの判断が出来ない。後日、ある税理士の資格者に問い合わせたが、私の問い合わせ方がわかったのか、返事が無い。そこで、臨港倉庫への私の質問と回答を発表して、識者の意見を求めたいと考えたのがこの文章だ。

質問 その1、田辺光次氏の役員在任期間。

回答、田辺光次氏 S 35. 8. 16 取締役として就任。 S 38. 10. 4 退任。3年2ヶ月。操業前、1ヵ年。合計4年2ヶ月。

質問 その2、S 41～45年度社長であった陣内轟氏の在任期間。

回答 陣内轟 元川崎市港湾局長。 任期 S 38. 5. 29～S 46. 8. 28。

質問 その3、H 18年度決算における営業収入が698,381,000円であるのに営業利益が154,470,000円と前年に比べ大きく増益した理由。

回答 主に人件費の削減が大きな要因であり、それは、H 15年度社員退職金3名分5,500万円と役員退職金（プロパー1名分）1,600万円、高年齢の社員3名の退職による人件費の減少、その他に修繕費1,300万円減、事業税1,200万円減及び原価償却費1,000万円減等により、H 16年度は前年度と比較して利益増となりました。

質問 その4、年々剰余金が増加しているが用途目的の有無。

回答 元来、剰余金は現金では有りませんので直接取崩して使用することは出来ません。また、貸借対照表に記載されている固定資産などの財産も繰越金に含まれ剰余金の中にも含まれていますので、使えるのはあくまで貸借対照表の預金のみとなります。

質問 その5、中古車輸出時の盗難車対策の有無。

回答 当社は、輸出中古車保管場所である野積保管用地の運用をH 15年度をもって終了しております。 (以上)

私は自分の質問と臨港倉庫（株）の回答をセットして書いたが、回答部分は2枚の用紙に2問ずつ書かれている。冒頭に書いたように、第4の質問の回答に対しての指摘に、明確に肯定する自信が無く、難問と理解している。納得できる説明をどなたかがなさっていただければ、即、回答者へ再質問をと考えている。

話は変わるが、昨日、川崎地下街（株）と、川崎市住宅供給公社に対して資料公開を求め

た。上記の問題を抱えているので、天下り問題に集中し、外は補助金と委託料の明細等とした。2社への開示請求文書は、

1、設立以降の役職・役員名と前歴を年度別に、ただし、個人情報に係わると考えられるので、「出資法人の現況」に記載されている程度という解釈を付した。

2、設立以降の補助金の明細（年度別）

3、設立以降の委託料の明細（年度別）

4、設立以降の委託業務内容

この4質問は両社共通だが、川崎地下街(株)はH15年度以降補助金が出されていないので、H14年度以降の総会資料の開示を求めた。H14年度までは年間1億2000万円前後の補助金が出されているので、補助金が無くなったのちの経理状態を知りたかったことと、打ち切りが行われた理由と裏づけが掴めればと考慮したからだ。

H17年度包括外部監査報告書が今年2月に発行され、まちづくり局と出資法人4社が対象とされている。2月の幹事会で清水代表幹事から、川崎市土地開発公社の監査部分について話があり、自分で報告書を入手しておく必要を感じ、申し出て入手した。

対象出資法人4社の内に、私が問題に感じている「川崎市住宅供給公社」も入っていた。その監査報告は経理の問題が殆どで、天下りという観点は皆無であったので、私の今回の開示請求は独自の観点であると分かり、ムダでないと胸をなでおろした。



# 十字街

## 憲法記念日によせて

佐々木玲吉

5月3日は憲法記念日です。今わが国では護憲か改憲かで大きく意見が分かれています。新聞各社もそれぞれの社説で論陣を張っています。5月3日各紙社説の要点を端的にまとめてみました。平和と9条の問題を考えるステップになればと思います。

### 憲法改定側

**読売** 小沢さんの改憲論はどうなった

「自民党は新憲法草案を公表している。民主党も昨年公表した憲法提言の条文化を急ぐべきだ。」……改憲を煽り立てています。

**毎日** 情熱をどう取り戻すか

「憲法改正は理屈だけでは到底動かない。変えたい人間の情熱を呼び起こさなければ絶対にできない大事業だ。」……改憲、そして愛国心の一大宣伝戦の必要性を叫んでいます。

### 護憲側

**神奈川** 先人の遺産を継承したい

「前文や九条の改正は戦争ができる国の復活を意味します。勝利を目指せば軍事を優先せざるを得ないのは論理的帰結です。憲法観、国家観の根本的な逆転換と言えるでしょう。こう考えてくるといまの改憲論議の危うさが浮かび上がります。泥沼化したイラク、超大国米国による『力の支配』になった国際社会に目をやると日本の果たすべき役割が問われています。大きな犠牲を払って確立した憲法的価値観、国家観が逆転するのを傍観してい

ては、平和な時代に生きて自由を享受してきた者の次の世代に対する責任が果たせません。」

次に米軍再編の社説を見てみましょう。

### 産経 首相は実現に向け努力を

「2 プラス 2 の共同発表は再編に伴う日米同盟関係の協同が新たな段階に入ったことを示す。日本の平和と安全だけでなく、世界の安定に資するものと評価したい。米側が示した約 3 兆円の経費総額は、日本側が負担する原則は示され、平和を守るためのコストとリスクの分担を首相は国民に訴え指導力を発揮することが責務」

**日経 在日米軍再編を日米の共通利益に**  
「巨額の費用をかけて在日米軍の再編に日本が協同するのはなぜか。脅威認識の差が日米間で縮小したのが最大の理由だろう。機動的な米軍の存在には、紛争抑止機能がある。基地提供でそれを支えるのは同盟国の責任であり、日本自身の安全保障のためでもある。」

**読売 同盟を進化させる行程表の実行**  
「今回の在日米軍再編は世界的な米軍再編の一環ではあるが、日米同盟を基盤として日本の安全を確保するのが最大の目的である。変化にあわせて日米同盟の目的、理念を柔軟に見直し日本の役割（自衛隊の出兵、改憲）と責任（3 兆円の出費）を明確にするのは当然のことだ。」

### 朝日 軍事が突出する危うさ

「今回の協議では防衛庁と国防総省の存在感が極めて大きかった。軍事面での協同ばかりが前面に出ることになった。費用負担 3 兆円という数字が出るが安倍官房長官は否定するわけでもない。文化も歴史を取り巻く国際環境も違う日米の国益はいつも重なるとは限らない。」

### 赤旗 アメリカのための戦争態勢だ

「米軍再編は日本の平和と安全どころか日本をアメリカの隈りこみ戦争のための中核的な足場にするものです。日米政府が合意したと

いっても、国民は合意していません。米軍再編反対の運動はこれからがいよいよ正念場です。」

以上各紙の概要ですが詳細は 5 月 3 日付紙面をご覧ください。

ところで改憲の動きが始まったのは何も最近のことではないとのこと。

憲法会議事務局長、川村俊夫氏によれば憲法が制定されてから一年もたたない 1948 年旧ソ連とアメリカとの緊張の高まり、中国革命の急速な進展を背景としてアメリカより起こされたとのこと。さらに朝鮮戦争が勃発すると、当時の占領軍最高司令官マッカーサーは「第二次大戦中日本人はよく戦った。」と褒め上げ、日本人若人を朝鮮戦争の最前線に送りたい意向を示しました。

今アメリカではブッシュ大統領の支持率は急激に低落してきています。それは今回のイラク戦争で大量破壊兵器が発見できなかっただけでなく、2 千数百人といわれる米兵が戦死しているからです。そこから 04 年当時のアメリカ国務副長官アーミテージによる「日本は改憲せよ」との発言が出てくるのです。それは戦費だけでなく日本の若人を、自衛隊員を米国の尖兵として使いたいのです。しかも指揮命令は米軍が握るという構図です。

今自民党そして右翼の人達は自らの改憲論はアメリカが後押ししてくれている、かつての日本の戦争は正しかったのだ、靖国史観は認められたのだと悦に入っているようですが、本質を見誤った愚かな考えというべきでしょう。

冒頭で述べたように読売、毎日、日経、産経等は「日米同盟の強化」「憲法の改定」を言葉巧みに論じていますが、外国の都合、圧力によって一国の憲法が左右されるとはとんでもないことです。

憲法とはそもそも何なのか、その原点に戻って考えてみようではありませんか。

## トルコ紀行

その3 トロイ  
(2006年2月8日)

望月 文雄

城砦を利用して造られたレストランを出ると、バスは一路ガリボリ半島を宿営地チャナッカレへと走る。左側にはマルマラ海が見え隠れする。道の両側には同じようなタイプの建設中の建物が多い。2時間3時間走っても同じような風景。やたらと目に付く建設中の家屋。どうして?と呟く。呟きが聞こえたわけでもないが、ガイドが「この周辺は別荘地として、発展中です。建設中の家屋が多いのは、建て主が資金が貯まるまで建設を一時中断しているからです。働いて資金ができれば再開します。放棄したわけではないのです。」と弁解がましく説明した。みんな納得顔。

後ろの席から小声で「この半島は物凄い激戦地で、海峡の向こう岸には戦勝したトルコ軍の慰霊碑があるんだよ。何万もの兵隊が死んだんだ。壕からにげださないように、各々が足を鎖で縛って敵と戦ったんだって。凄いでしょ」「ええそんなことがあったの、私は日露戦争のとき、ロシアの艦隊がダーダネルス海峡で合流して、インド洋に出て、太平洋を東支那海へ航海してきたことは小学校で教わったけれど、トルコ軍の多大な戦死者がでたなんてしらなかった。第一次世界大戦の話?」と問うと「そうだ」という。後日調べると、ガリボリの戦いといい、連合軍はトルコ軍の抵抗に合い、敗退した。トルコは第一次大戦に敗北したが、新しい国家としての基盤を作ったという歴史がある。

チャナッカレに到着したのは4時間後。コリン・ホテルはマルマラ海に面して新築されたホテル。特に眼を引く遺跡はない。昔は巡礼宿で4月25日のマンザック・デイは夜明けの祈りが、スペインの牛追い祭りとかドイツのビール祭りに匹敵するような祭りらしく、その時には観光客で宿泊施設の予約は困難だという。

旅人よ立ち止まれ!

無意識に踏んでいるその土は  
かつて時代の終わりの目撃者だったのだ  
聞きたまえ!

この静かなる塚の中に  
かつては鼓動していた民の

心臓が眠っているのだ  
ネジメッティン・ハリル・オナン作詩  
(ガリボリ戦跡碑)

翌朝ダーダネルス海峡をフェリーボートで渡る。60数年前、この海峡に自分が来るなどとは夢想だにしなかった。デッキは風が強い。向かいの海岸線近くを白い大型船がエーゲ海方面へ航行して行く。反対側から出たフェリーボートはかなりの間隔を空けて、チャナッカレへ向っていった。

トロイ(トゥルワ)の遺跡全体は柵で囲われていて、大きな遺跡という感じではない。手渡されたチケットをゲートの改札機に入れて出てきたチケットを受け取って中に入る。広場の右手がこんもりとした木立になっていて、有名な木馬が東北を向いて立っている。ガイドは木馬を無視して、木立を通り抜ける。行く手に掘り起こした残土が小高くなっているが、踏み固められた小さな丘のようだ。

ガイドは丘の向こう側に立ち、私たちに説明を始めた。足もとの丘はあんぐりと口を開けていて、北の方向に掘り込まれている。私たちが立っている丘は掘り起こした残土に間

違いない。そこここに赤いケシの花が咲いている。私の記憶ではフランス人神父が「コクリコ」と教えてくれた花だ。エーゲ海の島々にも、フランスのブルターニュ地方にも咲いていた国際的な花だ。

ガイドはドイツ人シュリーマンのトロイ発掘と、彼が掘り当てた財宝について説明を加えた。「彼はトロイ戦争の話を信じて、夢の実現を実行し、幾つか存在する丘の中からこの丘にたどり着き、見事、財宝を掘り当て、トロイ戦争の時のものだと思ったのですが、実はその財宝は第二期王朝（プリアモスの財宝）なのだ。シュリーマンがホメロスのイーリアスに語られているトロイ戦争は、彼が信じたように、伝説ではなく、史実であることが証明されたのだ。掘り出した財宝の認識は間違っただけのもの、彼のこの業績はヨーロッパの考古学界に遺跡探検の機運を巻き起こしたことは確かだ。」

10 期に及ぶトロイの古跡のそれぞれの期が一望できる掘割の谷に案内された。谷は左側に深い割れ目を見せていて、期を示す表示板が、期毎に添付されている。その谷の手前、右側はアテネ神殿か。ガイドが第六市（期）の門のところまで質問した。「木馬で有名なトロイ戦争の年代を知っている人は教えてください」と。誰も手を挙げない。私も自信はない。それを見た彼は「紀元前 13 世紀です」という。第七期の出来事なのだ。「コンスタンティノーブルの陥落」でなく、ガイドブックを丹念に読めば良かったという思いが胸を横切る。

アテネ神殿を突っ切って、昔の海があった方向が見渡せる小さな展望台に導かれる。小さいといっても 3、40 人は立てる。北側には木立が街路樹のように並んでいて、遙か向こうの丘までは平坦な土地。昔は海に流れ込む大きな河だったという。トロイはエーゲ海の



奥にある有数の貿易港だったが、流砂によって河が埋没してしまい、港の機能を喪失したのだという。シュリーマンがどのようなコースを通してトロイ遺跡の丘「ヒサルルクの丘」に到着したのか知らないが、パウロの世界宣教の旅によく出てくる「トロアス」という港は、地図上では遺跡のあるトロイと同じ位置に示されている。

彼が活躍したころは既にトロイは埋没していたのだろうか。

トロアスについて忘れがたい新約聖書の記事を紹介しよう。

「わたしたちは、除酵祭が終わったのちに、ピリピから出帆し、五日かかってトロアスに到着して、彼らと落ち合い、そこに七日間滞在した。

週の初めの日に、わたしたちがパンをさくために集まった時、パウロは翌日出発することになっていたのに、しきりに人々と語り合い、夜中まで語りつづけた。わたしたちが集まっていた屋上の間には、あかりがたくさんともしてあった。ユテコという若者が窓に腰をかけていたところ、パウロの話がながながと続くので、ひどく眠けがさしてきて、とうとうぐっすり寝入ってしまい、三階から下に落ちた。抱き起こしてみたら、もう死んでいた。そこでパウロは降りてきて、若者の上に身をかがめ、かれを抱きあげて、『騒ぐことはない。まだ命がある』と言った。そして、また

上がって行って、パンをさいてたべてから、明けがたまで長いあいだ人々と語り合っ、ついに出発した。人々は生き返った若者を連れかえり、ひとかたならず慰められた。」(使徒行伝 20 章 6～12 節)。

谷の所に戻ってから、第三期の発掘土砂にブルーシートがかけてある場所で説明を受けた。「この土はレンガを作る土で、いまでも昔の方法で、補修用のレンガをつくっています。この土壌のように見える部分は、第一期から第三期層のもので、大きな建築物の基礎のようです」と。ブルーシートの覆われている土壌を見て、私は人間の傲慢さ故に破壊された「バベルの塔」の故事を思い浮かべた。シナルという平野がティグリス・ユーフラテス河沿いにあるなら、トロイは全く逆方向だが、時代の共通性はありそうだななどと。

遺跡の見学を終えて、最後に木馬の場所に来て、休憩。日差しが暑い。チケット売り場の北側が建物と大きなプラタナスの木陰になっていて、木陰に入ると汗がウソのように消えていく。涼しい。「涼しいですね。木陰がそんなに涼しいなんて日本じゃ考えられない」と同行者がつぶやくように話しかけてくる。

発掘遺跡の南側にはこじんまりとしたローマ風の博物館があり、発掘された大理石の基礎部分が散乱していて、一つ一つに番号が書かれている。トロイ遺跡は海岸と海に流れ込む川べりで小高い崖になっていたのだろうか。円形劇場と最初に説明を受け小さな丘はチケット売り場と同じ平面にあり、木馬も同様だ。発掘された遺跡はほとんどが崖の中腹といえるような場所だ。

トロイからバスで約 2 時間揺られてベルガマに到着。昔のアクロポリスの一部が残存する。アテネのパルテノン神殿の豪華さはない

が、丘に至る崖に残されたアーチ型の歩道を持つ城壁は見事だ。アレキサンダー大王の死(紀元前 327 年)後、武将のリシマコスがエーゲ海地方を手中にし、大王の財宝をこの地に収集、新王国を開くも、彼はシリアとの戦いで戦死。その部下フィレタイロスがペルガモン王国を築く。その後、王朝は次々に替わってもその富は受け継がれたという。残存している神殿は皇帝トラヤヌス(在位 98 年～117 年)の名を持つ。神殿の主要部分は 19 世紀にドイツに持ち去られた。

クシャダスのオヌラ・ホテルの早暁、窓辺に立って美しいと言われる日の出を待った。入り江か河か判別のつかない、水辺の遙か向こうから、妙な音が流れてくる。読経のような感じで人の声であることは確か。風の向きによって、途切れることもあるが、かなり長い時間その声は続いた。あとで知ったのだがコーランを唱える声だったのだ。私はこの旅行中、早暁と昼食事と日没時に聞いた。祈りは日に 5 回というので、コーランも 5 回唱えていたのかもしれない。イスラム教世界なのだという思いを強められたことは確かだ。





## 編集後記

○第10回定例総会が無事終わりました。役員の皆さん、ご苦労さまでした。今年も頑張りました。ただ残念ながら今回も出席者が少なかったのが心残りです。

○川崎市長が、財政再建が軌道に乗ったのでこれまでカットしてきた期末手当の削減率を軽減する、と記者会見で発表しました。本当でしょうか。手当てを減額することの是非はしばらく措き、これから莫大な税金が投入される市営地下鉄事業などが目白押しです。しかも市債発行残高は増加しているはず。再建ということばの使い方が違うのでしょうか。

○社会保険庁の醜態、ニュースでご存知と思います。どうしてああいうことが出来るのでしょうか。その同僚が法律の立案、施行に携わり、違反者を取り締まる警視庁公安2課長が万引きする。新聞を開けば談合だ、汚職だが目飛び込んできます。醜聞はもういい加減にしてほしいものです。

○国外をみると、悲惨な報告が陸続します。ジャワ中部地震が、最新の最大の悲劇でしょうか。早く救援の手が届くことを祈ります。ニュースはいくつもあります。毎日のようにアフガンから、イラクから、パレスチナから、そしてスリランカ、東チモールへと嫌な足音がだんだん接近してきます。

○北朝鮮による拉致、その被害者の救出の目途は立つのでしょうか。どうも北朝鮮という国はわれわれの理解を超えた国のようです。

○改めてサッカー人気の強さを知らされました。NHKがあんなに取り上げるから人気が出るのか、人気があるから取り上げざるを得ないのか。ヤンキースの松井選手の不幸な怪我は確かにニュースでしょうが、イチロウが17試合連続安打したのもニュースになるのでしょうか。共産党系の集会でしたが、主催者発表5万人の政府批判集会、パレードは報道する価値がないのですか。 (清水)

## 会計報告 2006年4月1日～2006年5月26日

### 一般会計

収 入 (円)		支 出 (円)	
前期繰越	768,188	会報発行費	15,141
会費	135,000	コピー代	19,365
資料販売	8,400	情報公開請求	2,850
寄付金	32,000	会場費	0
利息	70	訴訟経費	0
		旅費交通費	0
		事務用品費	50,628
		通信費	9,680
		備品消耗品費	0
		図書費	0
		全国会費	10,000
		講師料	0
		HP管理費	5,000
		雑費	1,920
収入合計	943,658	支出合計	114,584
		残高	829,074
訴訟積立金			2,000,000

\* 土井英子さん、高橋信行さん、カンパをどうも有難うございました。

\* 事務用品費の支出が多いのは、「かわさき市民オンブズマン」の名称印刷封筒を作製したためです。

## 今後の予定

月例会議・学習会 いずれもどなたでも  
ご参加いただけます。

6月 1日 (木)	会報第53号印刷・発送	13:30	中原区役所
6月20日 (火)	第2回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室
6月28日 (水)	KCT公判	10:00	横浜地裁502号法廷
7月18日 (火)	第3回拡大幹事会	18:30	てくのかわさき
7月23日 (日)	連絡会議拡大幹事会 (福岡)		
7月25日 (木)	会報第54号原稿〆切日		
7月31日 (月)	全国大会報告書〆切日		
8月 1日 (火)	会報第54号印刷・発送	13:30	中原区役所予定
8月15日 (火)	第4回拡大幹事会	18:30	中原市民館和室
9月16日 (土)	～17日 (日)		全国大会 (福岡)

第3回拡大幹事会は  
てくのかわさきで開催します  
皆さん、ご参加下さい

発行 かわさき市民オンブズマン

所在地 郵便番号210-8544

川崎市川崎区砂子1丁目10番地2

ソシオ砂子ビル802 川崎合同法律事務所内

電話 044-211-0121 FAX 044-211-0123

振替 00270-3-85629

<http://www.kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp/>

E-mail: [esihara28@kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp](mailto:esihara28@kawasaki-ombuds.sakura.ne.jp)

会報第53号 編集スタッフ 清水芳治・佐々木玲吉 2006.6. 1